

調査プロジェクト

Junko Kumazawa Ady

Punahou School
Hawaii, U.S.A.



学習者年齢： 15～18才
日本語レベル： 初級
文化面の目的： 興味をもっている日本文化について調べる
調査を通じて日本人の多様性を理解する
学習する日本語： 仮説、質問、調査結果を日本語で書く

学習目標

生徒にテーマを選ばせることにより、生徒が関心を持っていることがらを通して文化理解を促進する。また、日本にさまざまな人がいることを理解し、日本に対する先入観を取り除くように導く。ワープロを使って日本語の文章を作ることができるようにする。

授業の進め方

<進行方法>

- 3～4人のグループに分かれ、グループごとにテーマを選んで、ディスカッションをし、各テーマに関する仮説を日本語で作る。
- テーマと仮説について10以上の質問を日本語で書き、調査用紙を作る。和文ワープロで打つ。用紙には、このプロジェクトの概要と回答の締め切り日、質問文、生徒の名前が含まれていること。
- 調査
インターネットで調査(教師が電子メールの送信相手を探す)。
観光客へのインタビューを含め、10人以上に対して調査を行う。
- 調査結果を発表用に日本語と英語

でまとめる。

- 仮説が裏づけられたかどうかを日本語で発表する。
- 調査に関するレポートを日本語で、反省文を英語で書く。
- 日本語の礼状を作り、回答者に電子メールで送る。

<テーマの選び方>

仮説を作りやすいテーマを選ぶように指導する。初めから日本語で仮説と疑問文を書き留めさせることにより、自然に生徒の日本語能力に合った学習内容を導き出すことができる。

<電子メールを送る相手>

送受信した文章を教師がチェックしながら、特に相手を選ばずに発信していたが、可能であれば同年代の日本人と発信するのがよい。

<電子メールの長所、短所>

- 電子メールの場合、会話調に近い文章になりやすく、話し言葉の練習になる。
- 郵便に比べてフィードバックが早く、便利である。
- 書く、読む、話す練習になる。
- 日本人との対話を通じて現代の日

本文化を知ることができる。

- 第二外国語学習では、間違いを恐れて引っ込み思案になる生徒がいるが、電子メールであれば、自分を表現しやすい。
- 相手の顔が見えないので、失礼なことを書かれる場合がある。
- ワープロに頼りすぎて、手書きで日本語が書けなくなる恐れがある。

生徒の意見・反応

- 電子メールを使うとすぐに返事が返ってくるので驚いていた。
- 生徒はグループ作業を楽しんでいた。
- 自分の好きなテーマを選んで調べることができるのが面白かった。
- もっとも多かったテーマ：スポーツ、学校生活、音楽、食事
- ユニークなテーマ：お化け、やくざ、サリン事件、など